

生徒の興味・関心と自己決定を大切にした支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校3年生の女子生徒である。当該生徒は、中学校入学後、起立性調節障害の診断があり、登校に難しさがあった。中学校2年生での校内別室への登校頻度は、週1・2日程度であり、1・2か月間にわたって利用しない時期もあった。当該生徒の保護者は、当該生徒の意思を尊重しながら校内別室登校を促している。

具体的な取組

○生徒が利用しやすい開室時間

校内別室を毎日開室している。

さらに、開室時間は、午前9時15分から午後3時45分であり、長時間の利用が可能である。

登校後、当該生徒は、1日の予定を自分で立てるようにし、自己決定を大切にしている。

○充実した図書

支援員は、週初めに図書室に行き、司書教諭と連携して校内別室に置く図書を選んでいる。当該生徒も読書を楽しみにしている。

当該生徒が興味のあるジャンルは、イラストや筋力トレーニングに関するものである。



○SC・SSWとの連携

SCは週3日(火・水・金)、SSWは週1・2日(月・火)に校内別室に訪れ、当該生徒の様子を観察するとともに支援員と情報共有している。

SC及びSSWは、支援会議において校内別室を訪れた際の当該生徒の情報を共有し、校内における組織的な支援に生かしている。

○所属学級との連携

所属学級の生徒(男女4人)が、日替わりで校内別室に給食を運んでいる。受け渡しの際に、当該生徒と会話をして交流している。

支援員は、校内別室において一緒に給食を喫食し、校内別室を利用する生徒同士の会話をファシリテートしている。

成果

中学校3年生になると修学旅行の取組をきっかけに、ほぼ毎日、校内別室に登校している。

また、支援員との信頼関係が構築され、将来のことや趣味のこと、家庭での出来事などの会話を楽しむ様子が見られるようになった。

課題

自己決定を大切にした支援を継続していく。

当該生徒が希望する進路に向けて、校内で組織的な支援をしていく。